

2012-18-1

山羊の肝臓

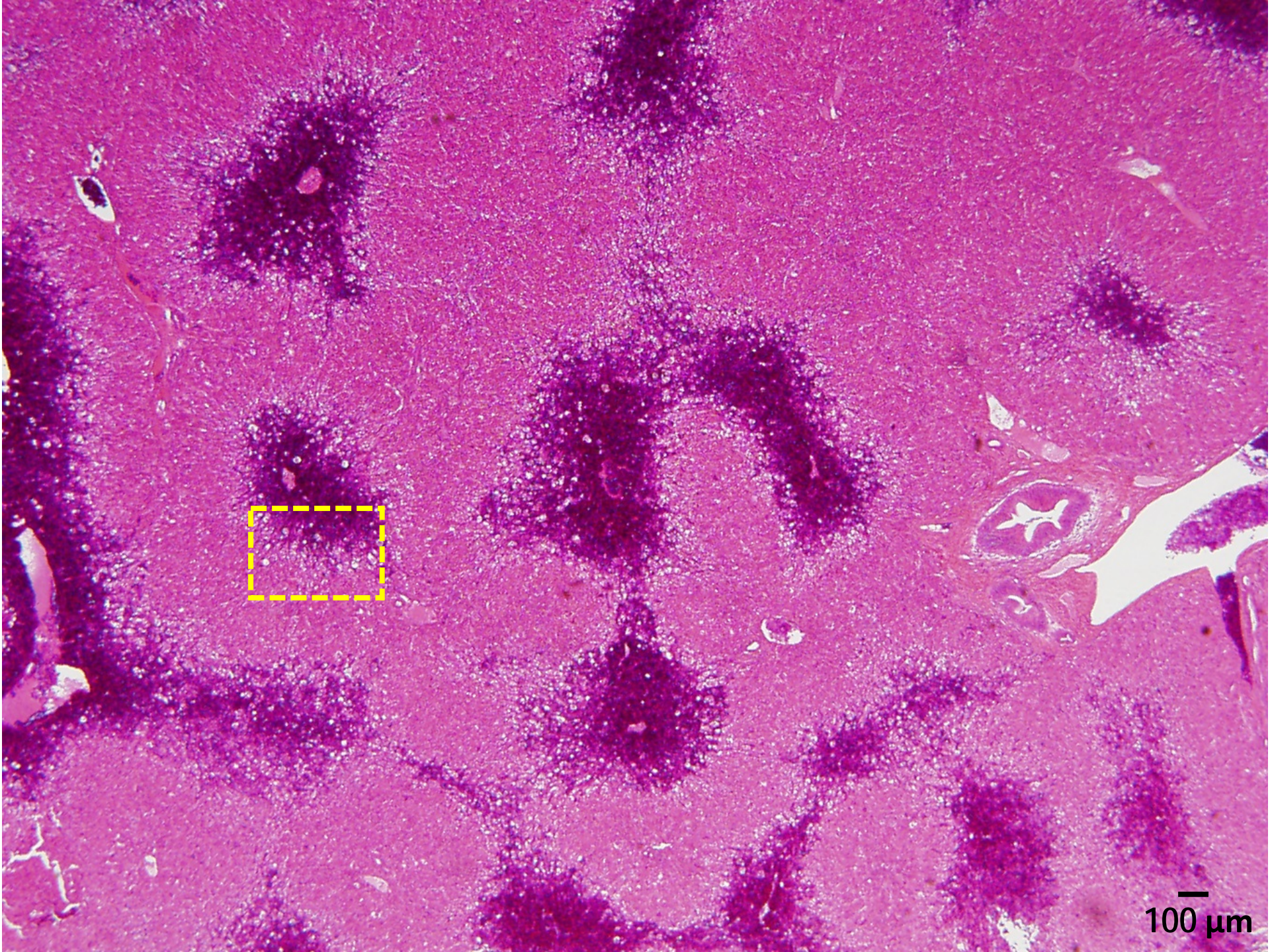
提出機関: Veterinary Laboratory
Department of Primary Industries(Australia)

症 例: 山羊 (Anglo Nubian種) 4歳 雌

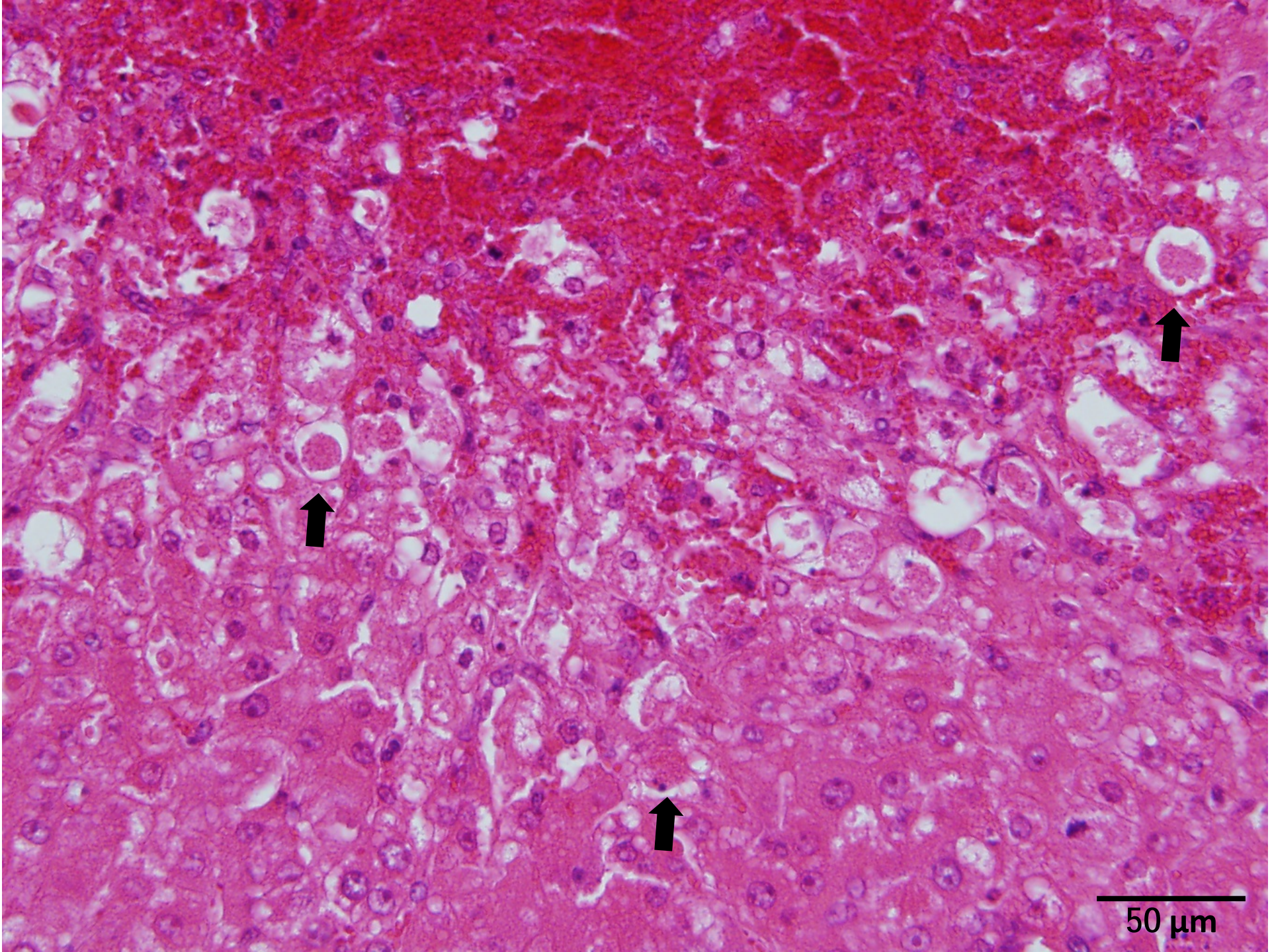
病 歴: 25頭中4頭のヤギが運動失調、頻脈、瞳孔散大、発熱(38.2)、頭位傾斜、放心状態を示した後突然死。

肉眼所見: 肝臓に広範性の白い模様を認めた。
その他の臓器には著変は認められなかった。

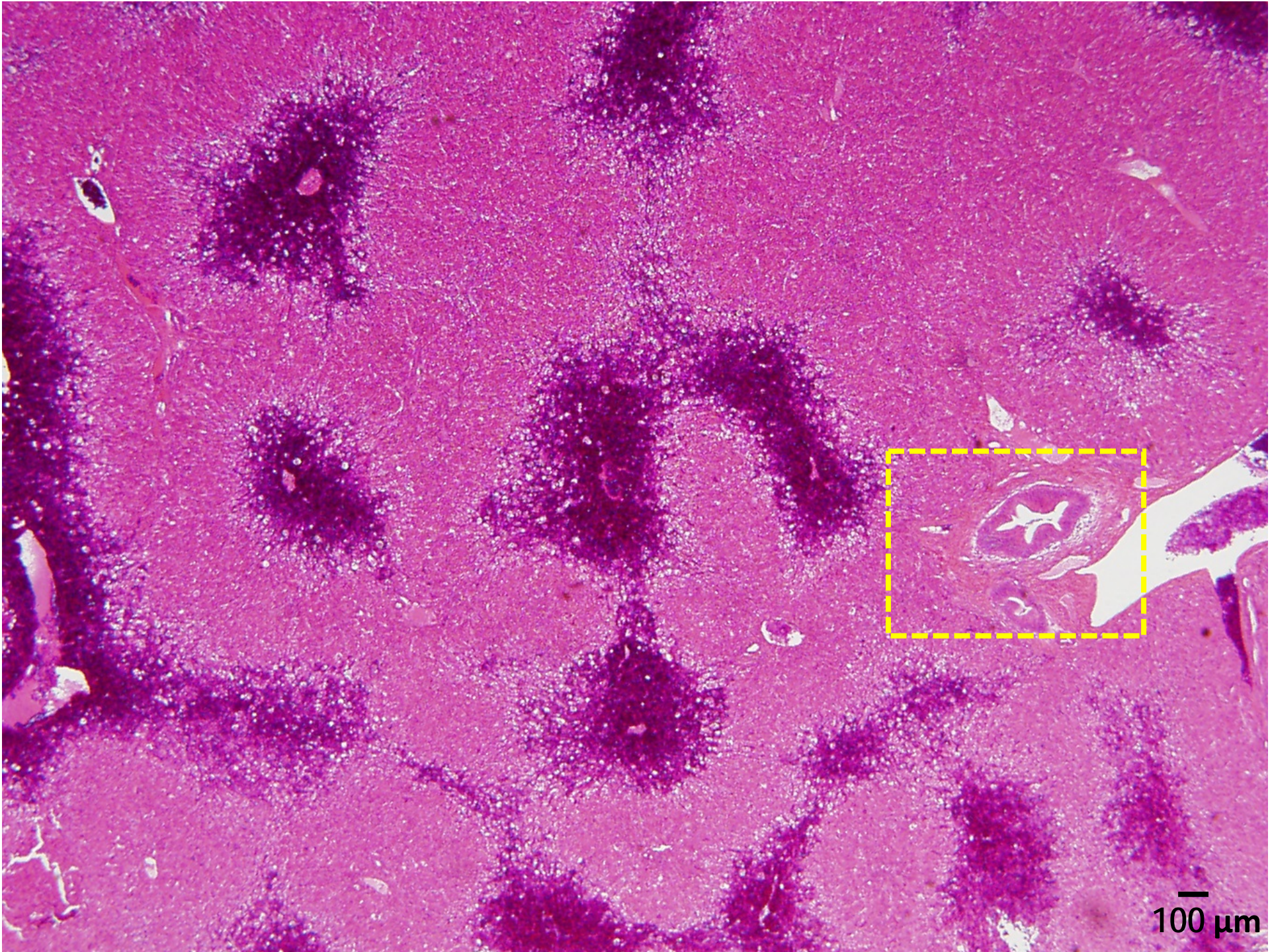




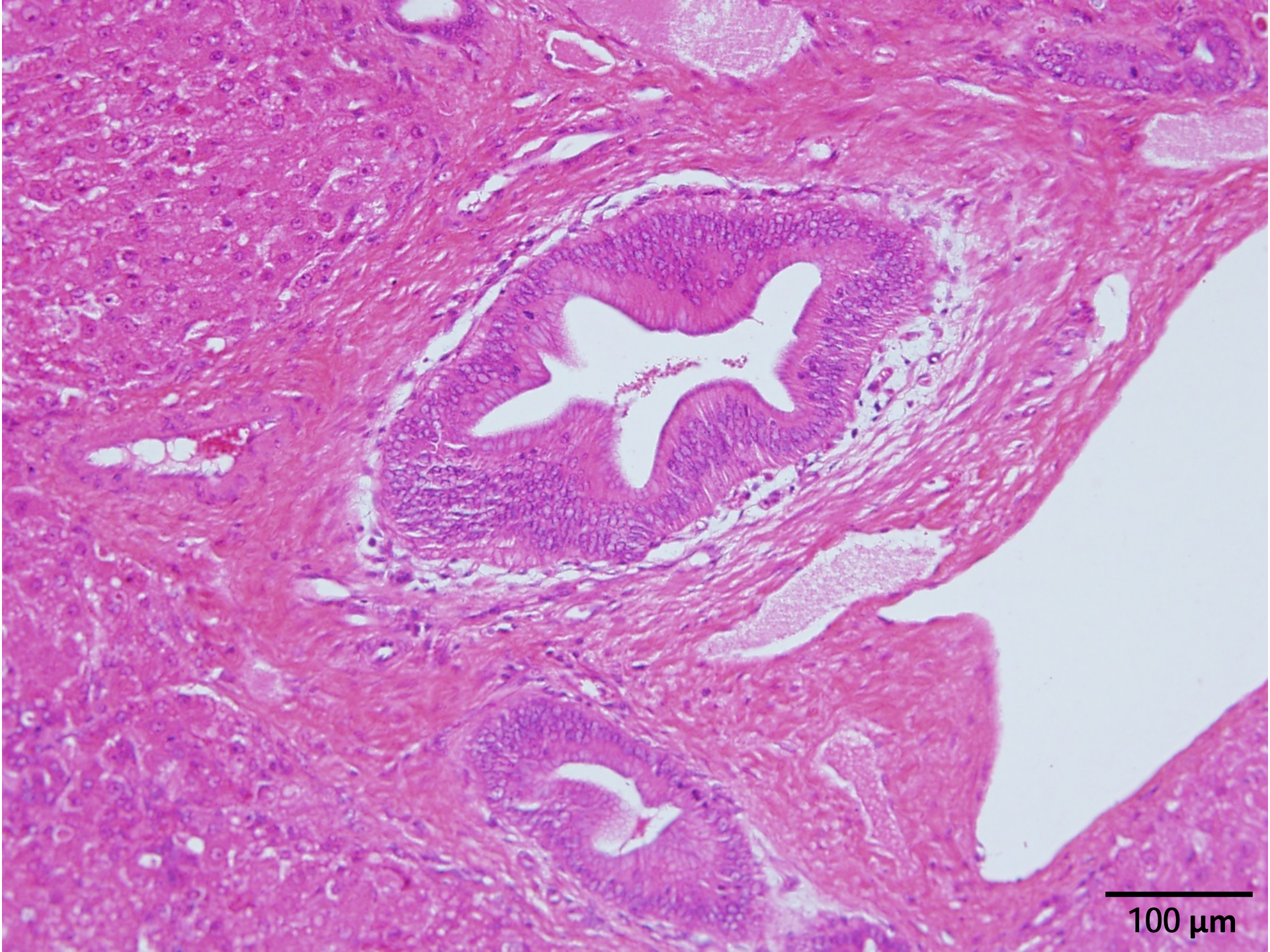
100 μm



50 μ m



100 μ m



100 μm

提出者の診断

- 肝臓: 1. 肝細胞壊死、小葉中心性、重度、融合性、急性
2. 軽度胆管上皮過形成

- Liver: 1. Hepatic necrosis, centrilobular, severe, coalescing, acute.
2. Mild biliary epithelial hyperplasia.

JPCの診断

肝臓、小葉中心肝細胞: 変性及び壊死、び慢性、急性、著しい出血を伴う

Liver, centrilobular hepatocytes: Degeneration and necrosis, diffuse, acute, with marked hemorrhage.

提出者コメント

Trema tomentosa

- 東部、北部オーストラリアに分布。
- 葉と幹は多くの家畜種に毒性がある。
- 毒性成分はトレマトキシンという配糖体。
- ウシ、ヒツジ、馬、ラクダなどで死亡事例が報告。



<http://www.pioneercatchment.org.au/plants-database/trema-tomentosa>

JPCコメント

肝傷害のカテゴリーについて

シトクロムp450による毒性代謝物の産生

免疫システムによる炎症

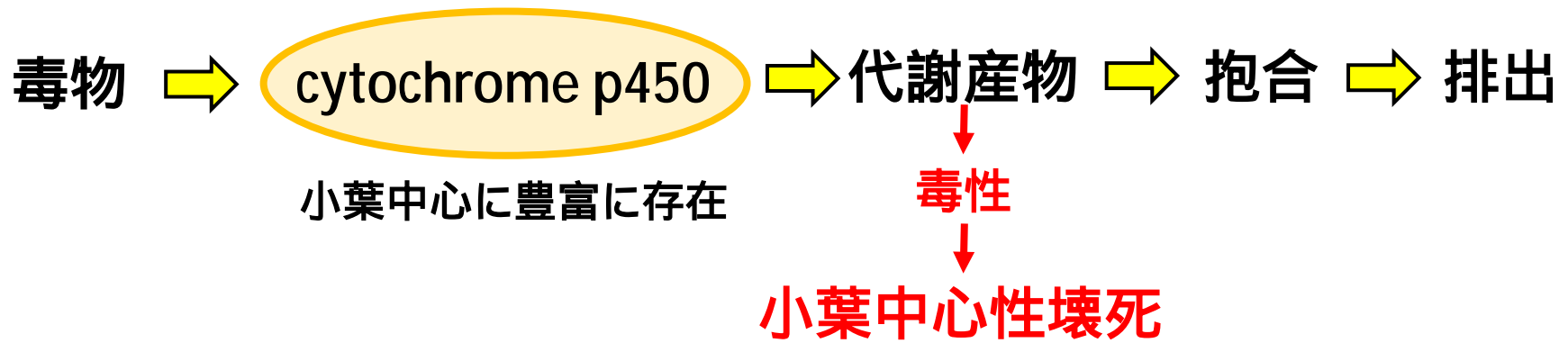
毒物貯留によるアポトーシス

細胞膜傷害による細胞内カルシウム恒常性の崩壊

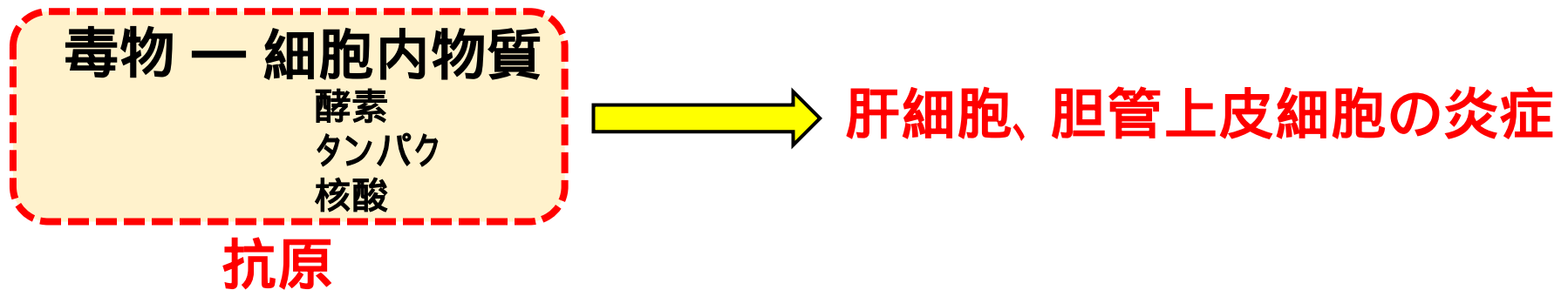
胆汁排出ポンプ傷害による細胞内胆汁うっ滞

ミトコンドリア傷害による肝細胞傷害・アポトーシス

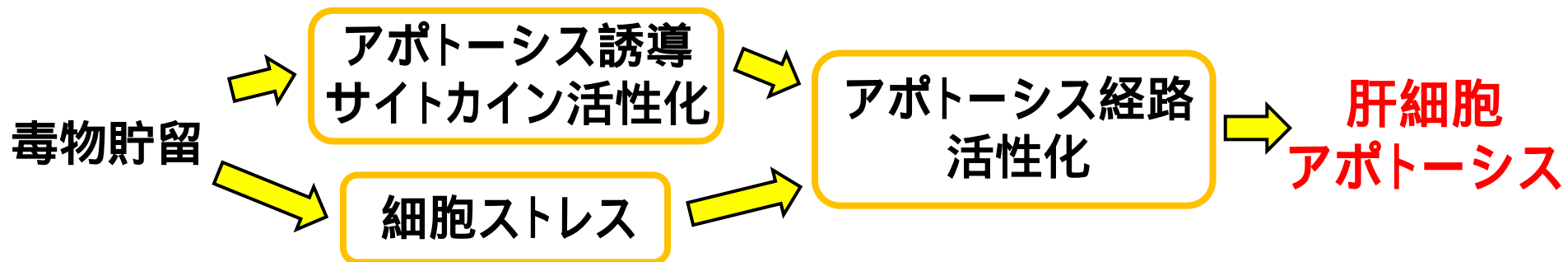
cytochrome p450による毒性代謝物の産生



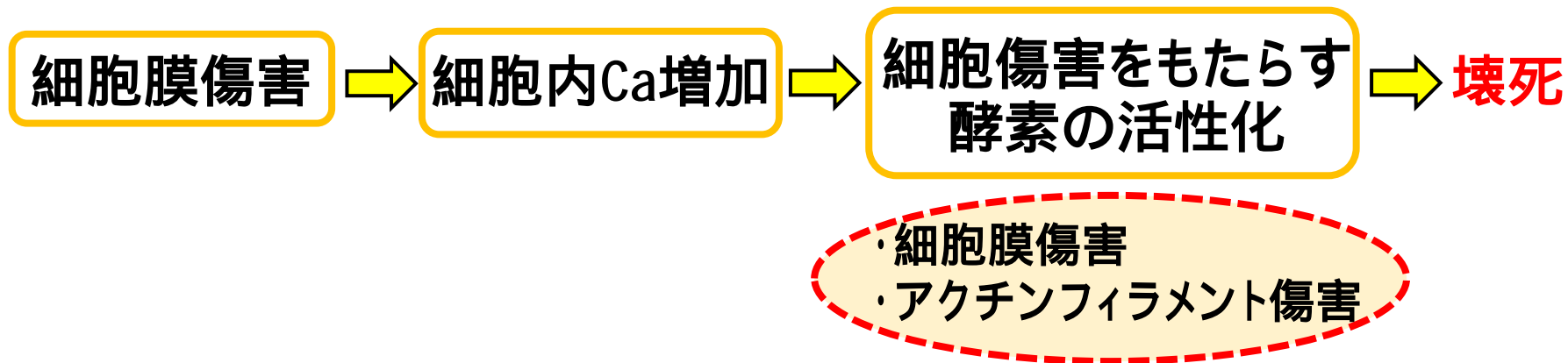
免疫システムによる炎症



毒物貯留によるアポトーシス



細胞膜傷害による細胞内カルシウム恒常性の崩壊



胆汁排出ポンプ傷害による細胞内胆汁うっ滞



ミトコンドリア傷害による肝細胞傷害・アポトーシス

